

概要版

信頼される学校教育を推進するために ～教職員の不祥事防止に係る提言～

平成 27 年 8 月 25 日

教職員の不祥事防止に係る有識者会議

■ 教職員の不祥事がなくなる原因

教職員の不祥事防止に係る現場教員会議の意見から

- ①主に個人の性格や考え方の問題ではないか。
- ②多忙やストレスが間接的要因ではないか。
- ③同僚性が希薄になったことで、個人を守れなくなっているのではないか。
- ④管理職の指導や学校全体の取組みが一人一人の心に響いていないのではないか。

■ 教職員の不祥事防止に係る提言（提言からの抜粋）

1 課題解決に向けた3つの視点

（1）教職員一人一人の心構えについて

- ・判断力が身につくよう、ワークショップ形式を取り入れた教職員研修を実施すること
- ・校長による心に響く指導を行うこと

（2）同僚性・職場の連帯について

- ・管理職、中堅教職員、若手教職員が互いに語り合い学び合う機会をつくること
- ・教職員を孤立させないよう、組織でサポートする校内体制を構築すること

（3）教職員のストレスについて

- ・アンケートやストレスチェックにより、ストレスの要因を分析し対応すること
- ・部活動の適正な在り方を見直すなど、教職員の多忙化の改善に取り組むこと

2 校長の学校経営マネジメントの在り方

- ・教職員一人一人に、仕事に対する意欲や成就感、やりがいを持たせること
（※エンパワーメントの発想の導入）
- ・職場の同僚性が高まるよう、風通しのよい明るい職場づくりを推進すること

※エンパワーメント：自己効力感を持って他者に働きかけ、自分自身の仕事や生活をよりよいものにしていく概念。
学校においては、教員が日々の学級経営や授業を自らの発想と努力で作成し、児童生徒・保護者と成果や喜びを共有することで、自分の仕事に対する意欲や成就感が高まるような場面が想定される。

3 教育行政の支援の在り方

- ・教職員研修プログラムを見直すこと（体系の見直し、ワークショップ形式の導入等）
- ・教職員の多忙化を改善すること
（校務支援システム、適正な部活動の在り方検討、専門人材の配置・増員等）
- ・教職員のストレスを管理すること
- ・新しいICT機器等の普及に応じた対策を講じること
（ICT機器活用のルール作り、モラル研修、一人1台PCの整備等）